地評の強化伸展へ総力を結集

みいけ

発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 528 474 番

編集兼発行人　山本博貫
三鉱労組印刷工場

三鉱労組機関紙

書記局便り

十二日　西鉱運輸行委員会
十三日　企画会議
十四日　支部長・労働部長合同会議
十五日　大地評共闘会議

政治局の連繋と共闘強化
更に労農商提携の拡充へ
大地評第二回定期大会終る

大地評第二回定期大会は、十月八日午後一時から労働会館で代議員二三〇名が出席して開かれ、議長団に野尻（国鉄）山田（三鉱）村上（三染）の三氏を選出したのち大会スローガン〃労働者の団結で自由と平和、生活と権利を守れ〃ほか六項目に〃石炭合理化法に伴う首切り絶対反対〃ほか三項目を追加確認、ついで細谷市長、市議会革新クラブ代表、革新商店連盟代表などのメッセージがあり、薄田事務局長の経過報告、二十九年度決算報告を行い、中心議題の一九五五年度運動方針の審議に入ったが、終始熱心な討議が展開され、すでに開始された秋季闘争にからむ賃金引上げをはじめ失業者、労基法、平和、教育、政治活動、文化活動など強力な闘争方針が確認され、大牟田市を中心とする全労働者の団結と、農民、商人との提携をさらに強化して、広範囲にわたる非新勞力の確固たる伸展により、生活防衛の闘いを強力に推進することになった。

大会は、祝辞祝電披露の後、経過報告に入り、薄田事務局長から一九五四年度活動について大要次の通り報告がなされた。

一九五四年度活動報告

第一回定期大会は、電化と大牟田鉄鋼労組の首切り反対闘争、そしてデフレ政策強行に対し賃上げ闘争を春に延ばし、大きい共闘組織で一挙に賃金ストップ政策を叩き破ろうとする闘勞整備の真唯中で行われた。

電化は首切り反対闘争に敗れ、大牟田鉄鋼勞組は完全に首を切られたのち、そして春の賃闘はかつて見なかった激闘が展開され、共闘の成果を収め得た。また各産業闘争にも計画通りの成果を挙げた。たゞ知事選に敗れたことは今さらながら大きな失敗であった。

メーデーは鹿児島市民多数参加し、五万の動員に成功した。当日八女の青年団のデモ参加申込みは、メーデー行事を組む上に一方向を与えたものといえよう。

夏季闘争は平和月間と結ばれたゝめ二～三の単産のみで成果は得なかったが、平和月間は従来にない成果を収めた。しかし市全体の盛上げに不徹底の面があったことは再考を要する。

未組織勞働者の組織化については五事業所に働きかけたがほとんど失敗、たゞ伊藤工業勞組の組織化と加盟をみたのみであるが、不当解雇などの問題で地評が処理解決したもの四件で、これら未組織勞働者の問題はわれ～が大きく取上げ闘わねばならぬ大きな問題である。

選擧活動について

十一月五日の第一回執行委員会より非常に頑張んだであるといわれた組織選挙闘争で、国会議員から村議まるが、その組合を検討すると、実で四十九名を公認、推薦し四十二名を当選せしめた。

その間、十二回の選対会議を開き、または合同戦術会議をもつなど時機に即した戦術を採用し得たのは各単組の受入態勢が整備していたためである。

今後は、候補選衝を相当前に終えるよう留意しなければならない。

文化活動について

勞働運動がある段階に到達すると、これを推し上げ拡げるものは文化運動である。

前進
大地評大會を終って

一九五五年の大地評第二回定期大会が、去る十月八日勞働会館に於いて開かれた。

ある単産は、経費の都合か何か知らないが、割当代議員の三分の一しか出席させ得なかったが、総体的には八十%強の出席率で大会は成立した。

行動方針、規約改正、役員選出等を中心とする重要議案を論議決定したのであるが、われ～が地評に対して希求している総てとまではいかなかったにしても各単産に昨年より以上に地評強化の気運が見えたことは大きな前進であろう。

◇

苦しかった企闘一二三日の激闘さめやらぬ大牟田の勞働傳勢は、われ～の提案した職務局強化、定例総会の開催等の地評育成強化案は総てとはいえないが、受入れてくれた。

それは過去幾多の闘いの辛酸と苛烈さを更に加えるであろう今後の闘いに対してヤマを併せる努力、更に家族、特に主婦の盛り上った闘いへの意欲の組織化に対しても同等の努力の手が打てなかったことを顧げねばなるまい。

特に市勞運を中心とする重産闘争に当っては、指導の一貫性を欠き、野放しとも見えるほどに放置したことは最大の汚点であったことを断言する。

こうした闘いの跡をつぶさによりかえってみると事務当局は勿論、各単産が共通して持っている組織労働者にもいろ～の欠陥が指摘され、われ～の闘いが本当に地についたものでなかったこと、〃上っつら〃計画性のうすい大きなギヤップを随所に見出すのである。

◇

更にわれ～と切っても切離されない市政についても問題がある事を顧げねばならない。

われ～は三井のカイライ市政を脱皮させ市政の主導権を勞働者、農漁民中小商工業者等の働く市民の手に取り返すため闘い続けたし、今春市政始まって以来、われ～の手によって革新市長と多数の革新議員を議会に送り込む事が出来た。その中心勢力は地評であった事も衆目の一致する処である。

そこでわれ～は今後、更に闘いを一層強化せねばならない。その闘いは強力に細谷市政の伸張をはかる闘いであり地方自治の民主化の闘いである。

こうした闘いに臨み本気になってパツクボーンとしての対策を行ってきたかを反省するときこれまた汚点の一つとして顧げざるを得ない。

◇

こうした問題点を中心に、今大会はあらゆる角度から批判検討した結果、①共闘を如何により強く組織するか。②市政対策を如何に推進するかが地評の最も緊急を要する事も明確に掌握された。これらの闘いの根源は前述の通り各単産の主体性如何と事務当局の指導性如何にある事を再認識せねばならない。

敵は常に安い給与と高い給与、環境の良い職場と悪い職場、官公勞と民間勞、反共と容共という様にありとあらゆる分裂支配を企図している、その顕著な例は四日勞働大臣の総評誹謗がいえよう。敵のこうしたあらゆる型の攻撃と分裂支配とが容赦なく打込まれているのが現状だ。分裂は何故おこっているか、職場は違っても、組合が違っても、一つの要求を掲げ、一つの闘い方が出来ないのか。

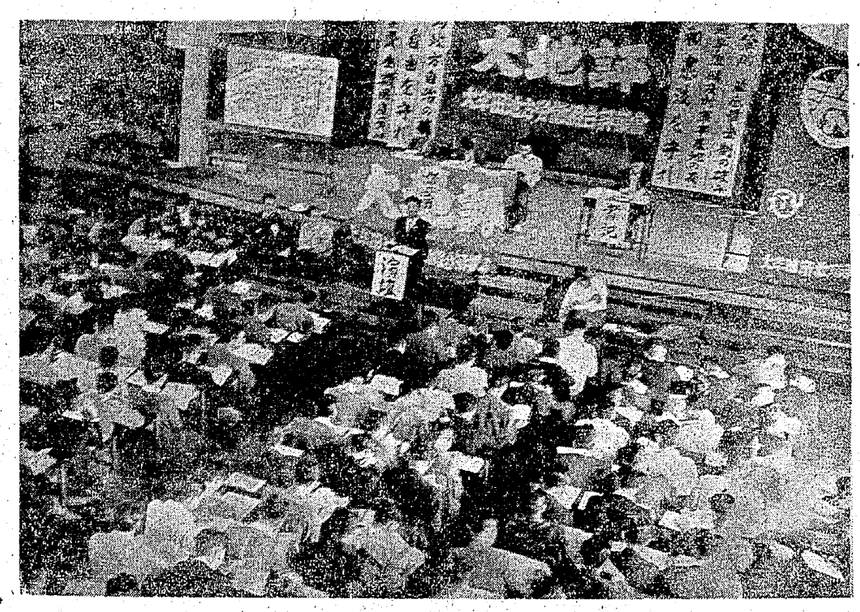
いや絶対出来るのだ！

各単産のセクトを打破し、各単産の力を組織化し、友愛と信頼の中から団結と統一の億大な力に結集する事が出来るのだ。

統一の声は、力は、〝職場の中から有明海の海底から、地の底で働く仲間達から勇然として湧きあがっているのだ。

今こそ自信と確信と、そして勇気をもって団結と統一のため、大地評の旗の下に結集しよう。

× × ×



景風會勞働の大館

書評

岡倉古志郎著『財閥』
―なくて戦争は、また伴られるか―

九大助教授　湯村　武人

光文社という本屋は、有名な「ベスト・セーラー」出版屋である。波多野勤子の『少年期』とか、ローゼンバーグの『愛は死をこえて』とか、安田徳太郎の『人間の歴史』や、望月衛の『欲望』とか、この本屋の出した本で大へんな当りをみせた本はこのほかにもいくらでもあるこの『財閥』もまたよく売れているらしい。なにしろ、どんな内容の本をどんなにして出せば売れるか、ということだけを考えて出版を経営しているのだから、当るのもあたりまえである。内容が世相にアツピールしているだけでなく中身に魅かれ手頃な大きさと値段で手に入れし、広告が大規模になされるなど、考えれば売れるのが当然である。けれども、それだけにまた欠点もつきまとう。売ることだけを考えて作られた本だからその内容は当然にキワモノに属し、ヘツタリばかりきいて良心性に乏しい。この『財閥』もまたこうしたベスト・セーラー物の長所と欠点をもっている。あるいは水爆実験と戦争の脅威を説き、それが誰の手によって誰の利益のためになされるかをあばき、あるいは黄変米の闇勞の内幕をはぐらしてその無責任ての財閥を浮彫りにする。あるいは焦地の問題が取扱われ、あるいはダレスやウイルソンが登場する。面白く読ませながら今日の世界、今日の日本を動かしているものが何であるか、なぜわれ～はこのように苦しい日々を送らねばならぬかなどの問題をわかり良く教えてくれる。これを読んだ人が、私はこの本を読んだ後、財閥というものに腹の底から怒りをこみあげてきましたと感想を述べているのをみるが、そうであろうと思う。けれども、同時に欠陥もある。本来は資本主義という社会制度の罪であるべきものが何か財閥を構成する特定の人間の性質によるかに考え違いさせかねないのがその第一であり、日本における外国資本の問題など個々の問題で充分な検討がなされずに勝手な結論がひきだされている所が多い。また戦争の脅威をさけるためにどうすればよいかという結論として著者の出す答えが戦争反対の署名に参加せよという一事につきていることは財閥というものの理解がほんとうの意味で著者に理解されていないことを物語るであろうし、そのことがこの問題における勞働者階級の占めるべき役割を真実には把握させないことになっている。要するにベスト・セーラー的な新書版である。欠点はあるが、よくできている本といえる。できるだけ多くの人が読まれることをすすめる。

（新書版二〇〇頁、一三〇円、光文社）

主食の増配要求を決定
炭勞・炭婦協・全食　の三者懇談會で

十月十四日組織を発足させたある御願宣伝を行い、十月二十五日の会議をもち、その全体の結集さには大牟田、荒尾地区で闘争運動が行われるので協力を訴えている。なお今後ニュースカーによる宣伝を行い、十月二十五日の会議を開いた中で今後闘って行くことになった。

会長　小島吉太郎（教組）
副会長　梅崎　豊（電化）
〃　末　足（化学）
事務局長　薄田　修（三鉱）
〃　次長　中山　孝頭（東圧）
会計監査　久保田清人（三鉱）
〃　宮崎正巳（市職連）

大会は宣言文を発表の後、勞働歌を合唱、明日への前進と力強い共闘を誓い午後七時、意義ある大会を終った。

炭婦協
糧
本年は増配可能だ
統一スケジュールで闘争を推進

本年は昭和八年の大豊作であったまま配給するとすれば本年度出荷量　二、八〇〇万石
の予想では七、四〇〇万石といわれている。この米を国民にそのまま配給すると　十五万八千石
一日分の配給総所要量（含勞務加配）　二、三五〇万石

福岡総評
戦術会議を設置
炭勞、地公勞、全駐勞の闘争を推進

十月六日福岡市勞働会館で福岡県県総評では秋の闘いを予定通り推進総評幹事会が開催され、石炭合理化に対する炭勞の反対闘争、再軍備予算のシワよせで地方財政は極度に底をつき、機構改革、人員整理に対する地公勞の闘い、あるいは全駐勞の首切り反対闘争など、闘いは全国にひろがりつゝあるが午後一時から開かれた緊急幹事会では、各単産の闘争状況の説明がなされ、単産独自の闘争スケジュールが出された。

地方財政逼迫で人員整理、機構改革が表面化され、地公勞闘争が活発になりつゝあるが、外部との連繋がまだ不充分であり、闘争を強化するため、総評では全体的スケジュールを組むことになった。

これと併行して土屋知事の責任をバクロした全県民へのアツピールを行うため、非常事態宣言を発することになった。

戦術會議を設置

さらに事務局長より、共闘勞働者を強化するため、

（イ）各単産に共闘の要請を行う
（ロ）出勞議員を中心に県政、基地問題について政策批判会をもつ。
（ハ）生活と権利を守る大集会を北九、筑豊、福岡、筑後でひらく。

（二）未組織勞働者の組織化などの提案を全員で確認した。

社会主義の国でも、医術、美術文化というものについては随分重視し、労働者の生活と権利を守る大集会を北九、筑豊、福岡、筑後でひらく。

（二）未組織勞働者の組織化などの提案を全員で確認した。

社会主義の国でも、医術、美術文化というものについては随分重視されている。

ソ連の国民一人当りの年間消費量は一石であった、それもほとんど全部内地米であったが、現在はこの大豊作といわれる本年でさえも〇・六石～〇・七石にしか当らない。それも全部国民に配給してのことだが、主食以外にまわる量を考えると実際の量はもつと少くなる、これは絶対量の不足となって「金持は米を、貧乏人は麦を食え」という前池田職相の言葉が実際となって現れてくる。本来米は　国民の長い歴史を持つ主食である。諸外国でもその国民の主食は、総ての国民に平等の量を公正な価格で確保している。わが国でもその例外であり得ない、食糧管理法にも明記してあることを見れば分かる。また政府は全炭鉱で実施している勞働加配（鑛種は一三六ある）をなくしてしまおうと計画している。増産だと尻を叩きながら働かした彼日医藤所長に対し団交を申入れた。

一、昭和三十年度予算に関する件
六カ月予算収支出七四六、四〇六円の原案を承認、決定した。
【註】三鉱勞組の全員番号担額は在職員一六、一〇〇人で、一カ月四九、二九五円、六カ月二九五、七七〇円である。

大会は宣言文を発表の後、勞働歌を合唱、明日への前進と力強い共闘を誓い午後七時、意義ある大会を終った。

長計に伴う諸問題で十二日山元團交申入れ

応じて次の通り定める。（挿入）

組合員　一千人未満　一名
一千一人以上三千人まで　二名
三千一人以上六千人まで　三名
六千一人以上一万人まで　四名
一万一人以上　七名

最後に役員改選を行い、三十年度の多難な諸闘争を闘い抜く強力な闘争を誓い午後七時、意義ある大会を終った。

政府は増配を行はぬ方針らしい

現在の政府の態度は、この米の豊作にもかゝわらず、この分は自由党から引継いだ統制撤廃政策の前進のために、備蓄米（米を自由販売にしておいて値段を政府手持の米を放出し調整する）として、増配は行わない方針のようである。しかしこの政府の方針が正しいかどうか、九月二十日飯塚市明九勞本部会議室で開かれた炭勞、炭婦協全食糧代表の懇談会で発表された話をきいてみよう。

戦前、米が自由販売であった時代（勿論間接には統制していた）国民一人当の年間消費量は一石であった、それもほとんど全部内地米であったが、現在はこの大豊作といわれる本年でさえも〇・六石～〇・七石にしか当らない。それも全部国民に配給してのことだが、主食以外にまわる量を考えると実際の量はもつと少くなる、これは絶対量の不足となって「金持は米を、貧乏人は麦を食え」という前池田職相の言葉が実際となって現れてくる。本来米は　国民の長い歴史を持つ主食である。諸外国でもその国民の主食は、総ての国民に平等の量を公正な価格で確保している。わが国でもその例外であり得ない、食糧管理法にも明記してあることを見れば分かる。また政府は全炭鉱で実施している勞働加配（鑛種は一三六ある）をなくしてしまおうと計画している。増産だと尻を叩きながら働かした彼日医藤所長に対し団交を申入れた。

一、昭和三十年度予算に関する件
六カ月予算収支出七四六、四〇六円の原案を承認、決定した。
【註】三鉱勞組の全員番号担額は在職員一六、一〇〇人で、一カ月四九、二九五円、六カ月二九五、七七〇円である。

等のやり口は今、加配米のハクダツに現れようとしている。その他にも政府の意図はすべてが再軍備へ急ぐためのやり方を勞働者と国民へのシワ寄せでやろうとしている。われ～は、あくまで統制撤廃に反対し、主食の増配を勝ちとらねばならない。

申入書

去る六月十五日、栗不社長申入れによる中央団体交渉は貧方期案の長期計画をめぐり続行中でありまし三池自体としても検討すべき左記諸問題につき団体交渉において解決致したく申入れいたします。

追而、交渉の日時、場所については別途協議いたしたく

記

一、自然減耗対策に関する件
一、山元機械整備に関する件
一、保安対策に関する件
一、福利厚生関係対策に関する件

歐亞旅行記 (34)
組合長　宮川睦男

駅頭にはレニングラードの勞働組合代表が花束をもって多数出迎えにきてくれていた。ホテルに案内され一応の打合せをやって、午後から市内見学をすることにしたレニングラードの街は丁度日本の京都のような感じのするところで非常に名所古蹟が多く、古びた都であった。歴史的な史蹟が沢山ある。次こゝは革命の発祥地でもある。

革命前後にレーニンが固ったという部屋もあった。そしてレニングラードにはバルチツク海に面した大きな港もある。港湾の施設も非常に充実していて大型船も入港していた。バルチツク海に注ぐネヴァ河流域の場所、波止場などは計画的に造られていた。

レニングラードは十年に一回位大きな天災地変に逢い洪水などでしばしば大被害をうけているそうであるが、しかし一見して落ちついた感じのする街である。

レニングラードで一ばん代表的な博物館を見学したが　その博物館は貴有名なアノール（旧ロシア帝）のいた宮殿であったそうである。この博物館は、パリのルーブル博物館とならんで世界的に有名であり、ルーブル博物館よりやおちるかも知れないが、大体同じような程度のものではないかといわれていた。こういう文化　美術関係に余り深い認識をもたないわれ～は、たゞ見て感心するばかりであるが、飾られているいろいろな美術品は非常に古くて優秀作品ばかりである。この博物館を一廻りするだけでも優に半月はかゝる。この見学を終えて、われわれはいろ～と考えさせられることが多かった。

社会主義の国でも、医術、美術文化というものについては随分重視されている。

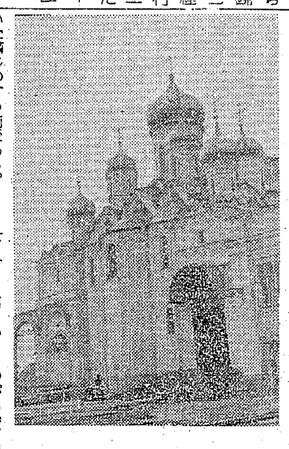
ソ連の国民一人当の年間消費量は一石であった、それもほとんど全部内地米であったが、現在はこの大豊作といわれる本年でさえも〇・六石～〇・七石にしか当らない。それも全部国民に配給してのことだが、主食以外にまわる量を考えると実際の量はもつと少くなる、これは絶対量の不足となって「金持は米を、貧乏人は麦を食え」という前池田職相の言葉が実際となって現れてくる。本来米は　国民の長い歴史を持つ主食である。諸外国でもその国民の主食は、総ての国民に平等の量を公正な価格で確保している。わが国でもその例外であり得ない、食糧管理法にも明記してあることを見れば分かる。また政府は全炭鉱で実施している勞働加配（鑛種は一三六ある）をなくしてしまおうと計画している。増産だと尻を叩きながら働かした彼日医藤所長に対し団交を申入れた。

一、昭和三十年度予算に関する件
六カ月予算収支出七四六、四〇六円の原案を承認、決定した。
【註】三鉱勞組の全員番号担額は在職員一六、一〇〇人で、一カ月四九、二九五円、六カ月二九五、七七〇円である。

大会は宣言文を発表の後、勞働歌を合唱、明日への前進と力強い共闘を誓い午後七時、意義ある大会を終った。

日炭高松勞
標作問題で闘争

日炭高松では、二月鉱に課題作業場を設定し、理由：三月ごろ左の〇片払いにラーメンカツターを入れて作業していたが、故障で予定の成績があがらなかったので標作を設けたい）これが決まるまでは賃金は暫定払いにしたいという会社の申入れがあり、組合は九月六日から交渉を続けてきたが、その間入坑拒否、座り込みなどで九月二十八日団交で暫定払い九三五円をかち取り、標作設定の問題は二月鉱全体の問いに拡大してゆくことになった。



レニングラードにはバルチツク海に面した大きな港もある。港湾の施設も非常に充実していて大型船も入港していた。バルチツク海に注ぐネヴァ河流域の場所、波止場などは計画的に造られていた。

レニングラードは十年に一回位大きな天災地変に逢い洪水などでしばしば大被害をうけているそうであるが、しかし一見して落ちついた感じのする街である。

レニングラードで一ばん代表的な博物館を見学したが　その博物館は貴有名なアノール（旧ロシア帝）のいた宮殿であったそうである。この博物館は、パリのルーブル博物館とならんで世界的に有名であり、ルーブル博物館よりやおちるかも知れないが、大体同じような程度のものではないかといわれていた。こういう文化　美術関係に余り深い認識をもたないわれ～は、たゞ見て感心するばかりであるが、飾られているいろいろな美術品は非常に古くて優秀作品ばかりである。この博物館を一廻りするだけでも優に半月はかゝる。この見学を終えて、われわれはいろ～と考えさせられることが多かった。

社会主義の国でも、医術、美術文化というものについては随分重視されている。

ソ連の国民一人当の年間消費量は一石であった、それもほとんど全部内地米であったが、現在はこの大豊作といわれる本年でさえも〇・六石～〇・七石にしか当らない。それも全部国民に配給してのことだが、主食以外にまわる量を考えると実際の量はもつと少くなる、これは絶対量の不足となって「金持は米を、貧乏人は麦を食え」という前池田職相の言葉が実際となって現れてくる。本来米は　国民の長い歴史を持つ主食である。諸外国でもその国民の主食は、総ての国民に平等の量を公正な価格で確保している。わが国でもその例外であり得ない、食糧管理法にも明記してあることを見れば分かる。また政府は全炭鉱で実施している勞働加配（鑛種は一三六ある）をなくしてしまおうと計画している。増産だと尻を叩きながら働かした彼日医藤所長に対し団交を申入れた。

一、昭和三十年度予算に関する件
六カ月予算収支出七四六、四〇六円の原案を承認、決定した。
【註】三鉱勞組の全員番号担額は在職員一六、一〇〇人で、一カ月四九、二九五円、六カ月二九五、七七〇円である。

大会は宣言文を発表の後、勞働歌を合唱、明日への前進と力強い共闘を誓い午後七時、意義ある大会を終った。

再任に當つて
大地評事務局長　清田　移

昨年の十月二十九日、皆様のごすいせんによる大地評事務局長の大任をおゝせつかりまして、仕事に未熟なため、無我夢中でこの一年を走り続けて参りました。

今日、この一年の行程をふりかえつて見ますと、まったくあぶない綱渡りのような感じも二、三ありまして、今更ながらハラハラさせられます。それにもかかわらず、春の賃上げ共闘にしても、メーデーにしても、はたまた平和月間でもすばらしい成果を収め得ましたことは、何と申しましても三鉱の皆さんが大きい気持で他単産を指導していたゞいたためと深く感謝しています。

本年は勞働運動にとつては非常に苦難の年といわれています昭和二十六年ごろまで皆さん方と共に闘い、日本の勞働運動の二大支柱といわれました電産はすでに大量の組織崩壊が起き、重大な段階に立たされています

社会党の統一という一応の条件が出来たといつても、勞働戦線の統一という段になると問題は複雑な様です。

でも私たちは組める問題だけでも共闘を組んで、闘いを進めるよう努力する積りです。なお私も進に行われました大地評第二回大会でのおしかりを充分胸にしめてつくり戦いを進める積りですので昨年に倍した御協力をお願い致します。

× ×

女子ばかりの勞組誕生

三和工業株式会社（市内中島町甘味製造）の従業員（女子十七名）は、十月十二日大地評の協力

申入書

去る六月十五日、栗不社長申入れによる中央団体交渉は貧方期案の長期計画をめぐり続行中でありまし三池自体としても検討すべき左記諸問題につき団体交渉において解決致したく申入れいたします。

追而、交渉の日時、場所については別途協議いたしたく

記

一、自然減耗対策に関する件
一、山元機械整備に関する件
一、保安対策に関する件
一、福利厚生関係対策に関する件